

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題				○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年		
国語	○「読むこと」の領域は、区の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」の領域は、区の平均正答率を2.1ポイント下回っている。	○全ての観点・領域で、区の平均正答率を上回っている。 ▲「言語文化」の単元は、区の平均正答率を2.8ポイント下回っている。	○全ての観点・領域で、区の平均正答率を上回っている。 ▲「言語文化」の単元は、区の平均正答率を0.7ポイント下回っている。		
社会	○「知識・技能」の観点は、区の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ▲「地理的環境と人々の生活」の単元は区の平均正答率を0.9ポイント下回っている。	○応用問題の平均正答率は、区と同等である。 ▲全ての観点・領域で区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点・領域で、区の平均正答率を上回っている。 ▲「活用」の単元は、個人差が大きい。		
算数	○「知識・技能」の観点は、区の平均正答率を0.1ポイント上回っている。 ▲「データの活用」の領域は、区の平均正答率を2.3ポイント下回っている。	○「平面図形」の単元は、区の平均正答率と同等である。 ▲全ての観点・領域で、区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点で区の達成率を上回っている。 ▲「言語文化」の単元は、区の平均正答率を0.5ポイント下回っている。		
理科	○全ての観点・領域で、区の平均正答率を上回っている。 ▲「活用」の単元は、個人差が大きい。	○「電流の働き」の単元は、区の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ▲全ての観点・領域で、区の平均正答率を下回っている。	○全ての観点・領域で、区の平均正答率を上回っている。 ▲「動物の誕生」の単元は、区の平均正答率を1.6ポイント下回っている。		
授業改善の方針					
国語	・あらゆる領域で自分の考えと友達の考えを比べる機会を設ける。さらにその活動から、自分で考えたことを記述や発言で表現する時間を意図的に設定する。 ・「書くこと」の指導の際には、必然性のある相手・目的を設定し、児童の意欲を高めながら思考力・判断力・表現力を育てていく。また、知識・技能面については、指導事項の焦点化を図りながら指導を行っていく。				
社会	・視点を明確にした資料の読み取りの活動や、児童の日常生活に関連付けた学習活動になるように指導計画を工夫していく。 ・資料を読み取って考えを深めたり、考えの根拠となる事柄を資料から選択したりする活動を取り入れ、学んだことを生かす活動を行っていく。				
算数	・児童の理解度を把握し、個に応じた指導を行い、着実に知識・技能を身に付けさせていく。そのために、習熟度に応じた学習計画や手だてを考えていく。 ・様々な考えを出し合って、互いの考えを説明したり、伝え合ったりする数学的活動を日々の授業で取り入れていく。				
理科	・一人1台タブレットを活用し、ノートの記録などを互いに閲覧・評価する活動を日常的に取り入れることで、思考力・表現力を高めていく。 ・見出した差異や共通点について追究する力を身に付けさせるために、観察の仕方や視点を具体的に示す指導を工夫していく。				
音楽	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えさせるなど、思考力・判断力・表現力を育成していく。				
図工	・作品制作をする上で、新しい素材を使ったり、発想につながる作例を紹介したり、日常生活の中の美しいものに触れる体験を取り入れる。最後まで作品制作にしっかり取り組めるように児童の興味、関心の高い内容に近づけていく。				
家庭	・自分の家庭生活を振り返りながら、制作や調理実習などの体験的学習を通して、日常生活に必要な知識や技能を身に付ける。また、学習したことと日常生活のかかわりに気付くことができるようにする。				
体育	・児童一人一人が「何を、どのように身に付けるか」見通しをもって学習に取り組めるような学習計画を立てる。 ・児童一人一人の課題解決が適切に進むように、場づくりや言葉掛けなどを工夫していく。				
外国語	・ALT との授業では、できるだけ英語でのコミュニケーションをとれるように、ALT と児童、児童同士のやり取りの時間、環境の充実を図る。 ・モジュールの時間を活用して、ALT との学習がより定着するような内容を選択、実施していく。				